

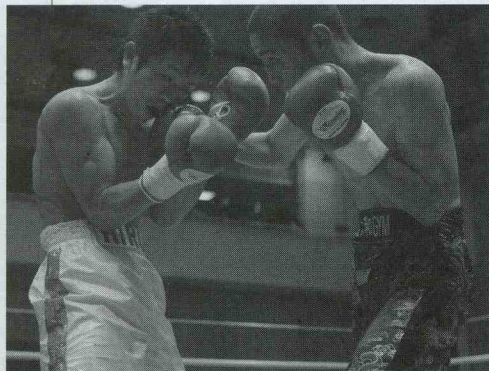
BOXER'S FILE

●選手ファイル

連敗を乗り越え、大きく成長
格上を下してランク獲得

岩井 大

DAI IWAI 三谷大和



岩井(右)はキャリアで勝る松崎を最後まで
攻めきり、勝利を手にした

2010年の11月26日。岩井は10戦目にして初の日本ランカーとのリングに臨んだ。相手は04年度の全日本新人王で日本スーパーフェザー級2位の松崎博保(協栄)である。

「松崎さんは、後に世界を制する小堀佑介(角海老宝石)選手が日本王者だった時代に互角の試合をしたボクサー。そんな人に自分が通用するのか、と思うと不安でたまらなかった」。試合が決まったときの岩井の気持ちだ。にもかかわらず、格上相手に終盤、自分のペースに持ち込み、判定を制した。

「(三谷大和)会長や加藤健太コーチと松崎さんのビデオを観て、克明に研究した成果だと思う」と岩井は勝因を挙げた後、「そして2つの敗北を糧にできたことです」と静かに続けた。

高校3年の秋にプロデビューした岩井は08年8月、4戦全勝の記録を背に勇躍、東日本新人王戦に臨んだ。けれども結果は判定負けだった。敗因を「体が未成熟で接近戦に弱い」と分析した三谷会長は翌年8月まで1年間、体力強化に専念させた。それなのに再度挑んだ新人王戦でも結果を出すことができなかった。

ボクサーが自分を見失うのはこんなときだ。が、岩井はその2ヵ月後の試合で

22ヵ月ぶりの勝利を飾ると、以後、順調に勝ち星を重ねて松崎戦の金星につなげるのである。岩井が再び松崎戦を語る。

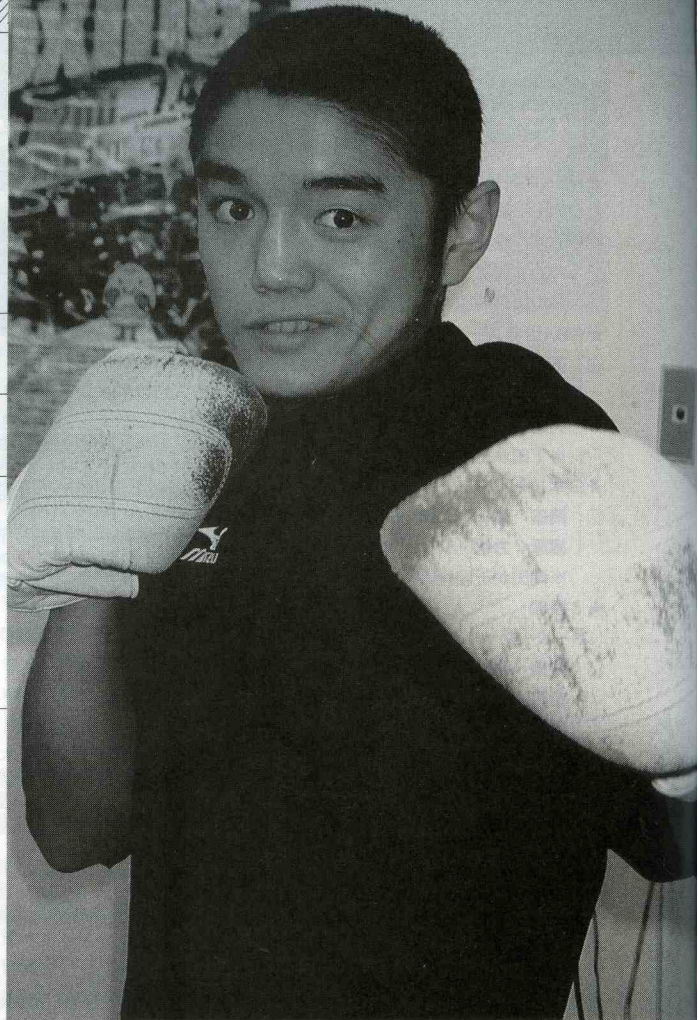
「僕のペースで始まった試合でしたが、2回から松崎さんが距離を潰してきた。そのとき“これは僕が

連敗したときのパターンだ”と感じたんです。その“負の気持ち”を振り切るには冷静に動いて自分の距離を取り戻すしかない。それを実行できたことが後半の反撃につながった。……まさにあの連敗体験がなければ勝てなかった試合でした」

連敗という「息苦しい年月」(岩井)の中でも納得するまでの練習を自分に課した。その苦しい歳月が実を結ぶことを疑わなかった。だからこそ連敗を糧にできたのだ。とはいえ、その中で戦うモチベーションを維持し続けることは至難の業だ。なぜそれが可能だったのか。岩井が言った。

「実は中学までいじめられっ子だったんです。高校1年ときにジムの門を叩いたのは、そんな自分がボクシングでどこまで通用するのか、確かめたかったから。だから連敗したときも、“ここで終わってたまるか”と……。その気持ちが僕にボクシングを続けさせたのだと思う」

こんなことがあった。授業開始のベルとともに席に着いた岩井は激痛を覚えた。彼が座る椅子に無数の画鋲が置かれていたのである。それでも画鋲をどけずに1時間、じっと耐え続けた。そんな岩井をいじめた張本人たちはやがて恐れるようになった。けれどもそうした体験は岩井の中にトラウマとして残った。些細なことをウジウジと気に病む情けない自分がいた。……ボクシングはその心の傷を克服するための最後の手段だった。



PERSONAL DATA

いわい だい ●日本スーパーフェザー級4位。1989年2月7日生まれ。千葉県船橋市出身。身長173cmの右のボクサーファイター。血液はB型。仕事は千葉中央の中華料理店「ラーメン欄々(さくさく)」の料理人。趣味は休日の食歩き。好きなボクサーは三谷大和会長と内山高志(ワタナベ)。

RECORDS

●2006年		
9.11 潮田宗紀(新日本木村)		○判定4R
●2007年		
3.12 西山慶彦(白井・具志堅スポーツ)		○判定4R
6.11 酒井 隆(ファミリーフォーラム)		○TKO4R
12.10 十倉真一(輪島功一スポーツ)		○TKO1R
●2008年		
8.5 阿部隆臣(新日本大宮)		●判定4R
●2009年		
8.19 打馬王那(ワタナベ)		●判定4R
10.28 安住幸一郎(角海老宝石)		○TKO5R
●2010年		
3.11 大沼弘宣(協栄)		○判定6R
7.23 平山悦久(ONE・TWOスポーツ)		○TKO5R
11.26 松崎博保(協栄)		○判定8R

松崎戦をクリアした今、彼の心は極めて安定している。日本ランクを手中にしたからではない。4年半のプロ人生によって、いじめられっ子時代に負った心の傷を完全に払拭できた実感があるからだ。そして今、岩井をいじめた男たちのほとんどが彼の試合を会場まで見にきているという。しかし岩井は言う。

「あの辛い体験がボクサーとしての自分のバネになっている。だからいじめられっ子時代を決して忘れずに生きていくつもり……」

この克己の男の次戦は3月11日。T & Tジムのベテラン・鳥海純平戦が予定されている。【丸山幸一】